



2015.10.26 トヨタ財団国際助成プログラム

2015年トヨタ財団「国際助成プログラム」の贈呈式に参列し、多くの事例と交流の機会をいただいた。式典は遠山敦子トヨタ財団理事長の挨拶でスタート。

「高齢化する地域コミュニティの担い手」8件、「国際的な人の移動と多様性のあるコミュニティ」4件、「フォーラム助成」3件。計15の研究者、団体が助成を受けた。

トヨタ財団は従来、日本および東南アジア4カ国を対象に助成してきたが、今年から日本を含む東アジアと東南アジア18カ国・地域を対象を広げて助成することになった。各国・地域とのさらなる交流の成果が期待される。助成金授与式に先立ち、過去の助成対象者の事例報告が行われた。

長野県佐久市とタイ国チョンブリ県サンスク町の連携事例。佐久大学東田吉子教授からは高齢者ヘルスケアのノウハウと事例紹介が、サンスク町のケア担当者の意識とスキルの向上に役立ち、住民、ヘルスケアデータの重要性理解が大きな成果につながった。



吉富志津代ワールドキッズコミュニティ代表は、移住、移民環境で育つ第2世代の日本語教育の重要性、なかでも母語とのバイリンガル教育が大きな成果につながると報告。日本語習得、人格形成には母語尊重が大きな役割との報告に注目する。

トヨタ財団が始めたプログラム・オフィサーの役割は、助成を単なる助成に終わらせない成果、効果をあげており、さらなる学習効果の広がり期待したい。